

施策名：九州の東の玄関口としての拠点化

事業名	担当課・室名	ページ
九州の東の玄関口としての拠点化推進事業	交通政策課	1 / 2
公共交通活性化促進事業	交通政策課	1 / 2
国際航空路線誘致・拡充促進事業	交通政策課	1 / 2
ポートセールス体制強化推進事業	港湾課	2 / 2
港湾整備事業	港湾課	2 / 2
東九州海上物流拠点推進事業	港湾課	2 / 2

主要な施策の成果（事務事業評価）令和3年度実績【施策コード：Ⅲ-4-(1)】

No.	事業名・事業概要・事業費	主な事業内容	主な事業内容ごとの決算額	成果指標	達成度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	評価		
1	<b>九州の東の玄関口としての拠点化推進事業</b> (H28～) 交通政策課 九州の東の玄関口としての拠点化を推進するため、県内外を結ぶ交通ネットワークの充実を図る。	①国内航空路線利用促進事業 航空会社や近隣空港との連携による国内航空路線の利用促進 ②フェリー航路利用促進事業 フェリー事業者に対し、フェリー航路の利用促進のために必要な経費の一部を補助：4件 ③大分空港アクセス改善事業 ノースライナー及び佐白ライナーの運行による大分空港のアクセス改善	① 13,000 ③ 6,938	フェリー・航空輸送人員	目標値	3,770	3,800	3,840	D		
			② 10,453 ④		実績値	1,365	1,851	—			
			主な活動指標と達成率			[千人]	達成率	36.2%	48.7%	—	
			フェリー事業者との利用促進に向けた連絡会議の開催回数	目標値	3	実績値	3	事業の成果・社会情勢の影響を踏まえた取組・今後の方針 新型コロナウイルス感染症の影響によりフェリー・航空機ともに利用者数が伸び悩み目標値を大きく下回ったが、令和2年度はほぼ休んでいた佐白ライナーを運行再開させるなど、コロナ禍にありながらも空港利用者数増加に向けた取組を行った。 引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況等を注視しつつ、時機を逸することなく、フェリー及び航空機の利用促進に努めていく。			
			ノースライナー及び佐白ライナーのダイヤ見直し回数	目標値	18	実績値	16				
予算額 (うち翌年度繰越額)	決算額 (うち国庫支出金)		[回]	達成率	88.9%						
34,527 (0)	31,085 (0)										

No.	事業名・事業概要・事業費	主な事業内容	主な事業内容ごとの決算額	成果指標	達成度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	評価		
2	<b>公共交通活性化促進事業</b> (R3～R4) 交通政策課 コロナ禍で利用者が減少している交通機関の早期利用回復を図るため、各交通事業者の特性を活かした企画商品造成等を行う。	①企画商品の造成・販売事業 交通事業者の特性を活かした企画商品の造成・販売を実施 ②デジタル技術を活用した乗合バス感染症対策補助 デジタル技術を活用した感染症対策を実施するため、モバイルチケットやリアルタイム混雑情報提供システムの導入経費を補助：3事業者 ③UD（ユニバーサルデザイン）タクシーの導入補助事業 多様化する移動ニーズに対応するため、誰もが利用しやすいUDタクシーの導入経費を補助：30台	① 98,347 ③ 18,000	企画商品利用者数	目標値		80,000	53,000	D		
			② 22,418 ④		実績値		30,828	—			
			主な活動指標と達成率			[人]	達成率		38.5%	—	
			企画商品造成事業者数	目標値	15	実績値	15	事業の成果・社会情勢の影響を踏まえた取組・今後の方針 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、事業の停止期間を設けたため、目標値に到達しなかった。 今後は、新型コロナウイルス感染症の状況等を注視しつつ、事業停止の基準を再考し、社会経済の再活性化に向け、交通機関の早期利用回復に努めていく。			
			タクシー事業者への事業説明会開催回数	目標値	2	実績値	2				
予算額 (うち翌年度繰越額)	決算額 (うち国庫支出金)		[回]	達成率	100.0%						
252,039 (61,652)	190,386 (190,386)										

No.	事業名・事業概要・事業費	主な事業内容	主な事業内容ごとの決算額	成果指標	達成度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	評価		
3	<b>国際航空路線誘致・拡充促進事業</b> (R1～) 交通政策課 ソウル路線の安定的な運航継続と上海路線の誘致を実現させるため、運航支援及び利用促進対策を行う。また、チャーター便や新規路線の誘致に取り組む。	①定期便再開・定着化及び新規路線誘致対策 新規路線誘致及び路線再開に向けエアポートセールス等を実施	① 285 ③	国際線利用者数	目標値	140,000	61,000	56,000	—		
			②		④	実績値	—	—		—	
			主な活動指標と達成率			[人]	達成率	—	—	—	
			利用促進PRの回数	目標値	18	実績値	0	事業の成果・社会情勢の影響を踏まえた取組・今後の方針 新型コロナウイルス感染症の拡大による国の入国制限措置により、大分空港においては国際線の運航を行うことができなかった。 今後は、新型コロナウイルス感染症の状況等を注視しつつ、収束を見据え、韓国線の早期再開とともに、中国、台湾、その他アジア地域からの新規就航を働きかけていく。			
			エアポートセールスの回数	目標値	6	実績値	6				
予算額 (うち翌年度繰越額)	決算額 (うち国庫支出金)		[回]	達成率	100.0%						
666 (0)	285 (0)										

主要な施策の成果（事務事業評価）令和3年度実績【施策コード：Ⅲ-4-(1)】

No.	事業名・事業概要・事業費	主な事業内容	主な事業内容ごとの決算額	成果指標	達成度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	評価		
4	<b>ポートセールス体制強化推進事業</b> ( R2 ~ R4 ) 港湾課 九州の東の玄関口としての拠点化戦略の推進に向け、大分港（大在地区）をはじめとした県内港の活性化を図るため、官民一体となった推進体制のもとで利用促進・集荷推進対策などのポートセールスを強化する。	①大分県RORO船利用促進助成 大在港発のRORO船航路における輸送試験実施の経費助成：18件 ②大分県RORO船利用促進セミナーの開催 ・県内港のPRやRORO船利用に関する説明会の実施：2回 （新型コロナウイルス感染症の影響により説明会の実施に代え資料配布を実施：3回） ・個別企業訪問等ポートセールスの実施：85社 ③ポートセールス組織の運営 ポートセールス推進体制の強化	① 7,870 ③ 167	<b>RORO船シャーシ台数</b> 目標値 34,000 実績値 27,971 達成率 82.3%	34,000	<b>39,000</b>	44,000	D			
			② 1,218 ④		実績値 27,971 達成率 82.3%	27,971	<b>29,144</b>		—		
			主な活動指標と達成率			大分県RORO船利用促進助成件数 目標値 15 実績値 18 達成率 120.0%	事業の成果・社会情勢の影響を踏まえた取組・今後の方針 ターゲットを絞り込んだ企業訪問や県内外セミナーの開催により、前年度を上回る集荷実績を達成することができたものの、新型コロナウイルス感染症の影響による観光業の低迷やイベント等の中止・延期もあり、目標値に届かなかった。引き続き、2024年問題（運送業における時間外労働時間規制）やアフターコロナを見据えながら、時機を逸することなく、官民一体となったポートセールスを実施する。				
			予算額 (うち翌年度繰越額) 13,034 (0) 決算額 (うち国庫支出金) 9,255 (0)		企業訪問数 目標値 100 実績値 85 達成率 85.0%						

No.	事業名・事業概要・事業費	主な事業内容	事業の成果・社会情勢の影響を踏まえた取組・今後の方針									
5	<b>港湾整備事業</b> ( ~ ) 港湾課 フェリーを活用した人流・物流の活発化による産業活動の活性化を図るため、船舶の大型化に対応した係留施設や港湾貨物を取り扱うふ頭用地等を整備する。	重要港湾5港、地方港湾13港 ①(公)重要港湾改修事業 道路整備、岸壁補修等 ②(公)地方港湾改修事業 岸壁整備、物揚場補修等 ③(公)港湾改修統合事業 岸壁補修、防波堤整備、物揚場補修、道路補修等 ④(単)港湾改良事業 泊地浚渫、航路浚渫、防波堤補修、物揚場補修等 ⑤港湾機能施設整備事業 荷役機械補修、ふ頭用地造成等	船舶の大型化に対応した係留施設や港湾貨物を取り扱うふ頭用地等の整備を進めた。 今後も、産業活動の活性化を図るため、効率的な港湾整備を行う。									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施状況</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>                     対象港湾施設の整備により、安全性・利便性が確保できる船舶の数                      (最大係留可能隻数)                 </td> <td>519</td> <td>539</td> </tr> </tbody> </table>				実施状況	令和2年度	令和3年度	対象港湾施設の整備により、安全性・利便性が確保できる船舶の数 (最大係留可能隻数)	519	539
			実施状況	令和2年度	令和3年度							
対象港湾施設の整備により、安全性・利便性が確保できる船舶の数 (最大係留可能隻数)	519	539										
予算額 (うち翌年度繰越額) 6,656,580 (2,490,060) 決算額 (うち繰越事業費) (うち国庫支出金) 4,166,448 (1,560,935) (835,717)												

No.	事業名・事業概要・事業費	主な事業内容	主な事業内容ごとの決算額	成果指標	達成度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	評価		
6	<b>東九州海上物流拠点推進事業</b> ( H5 ~ ) 港湾課 本県産業の国際競争力を高めるために重要な産業基盤（海上物流拠点）である大分港大在コンテナターミナルの貨物集荷機能の強化を図る。	①船会社や荷主企業へのポートセールスの実施 ・条件不利地域の貨物集荷に対する助成：16社 ・大分港大在コンテナターミナル利用転換助成：18社 ・通関実地検査費用助成：2社 ②大在コンテナターミナルPRのためのセミナーの実施 東京、大阪でのセミナー開催：2回 ③大分県国際物流推進協議会への負担金	① 14,850 ③ 200	<b>突入りコンテナ貨物取扱量（外貨・内貨計）</b> 目標値 41,200 実績値 39,378 達成率 95.6%	41,200	<b>42,500</b>	43,800	B			
			② 2,630 ④		実績値 39,378 達成率 95.6%	39,378	<b>41,937</b>		—		
			主な活動指標と達成率			ポートセールス延べ訪問数 目標値 150 実績値 113 達成率 75.3%	事業の成果・社会情勢の影響を踏まえた取組・今後の方針 新型コロナウイルス感染症の影響により過去最高を記録した令和元年度には及ばなかったものの、令和3年度の貨物量は、これまで積上げてきた取組などにより、前年度を上回る実績となった。引き続き、成果の上がっている利用転換助成を継続するとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、新規航路誘致による荷主の利便性向上や、企業本社が多い都市圏でのポートセミナーの実施等により更なる貨物量増加を図っていく。 ※TEU：20フィートコンテナ1本の単位。40フィート1本は2TEU				
			予算額 (うち翌年度繰越額) 17,680 (0) 決算額 (うち国庫支出金) 17,680 (0)		ポートセミナー開催回数 目標値 2 実績値 2 達成率 100.0%						